

## 2017 年度第 10 回支部集会【関西支部】

2018 年 3 月 24 日(土)10:00-16:40(受付開始 9:30)

龍谷大学 深草キャンパス 21号館

主催:公益社団法人日本語教育学会

住所:〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 (代表 TEL 075-642-1111)

交通アクセス: [http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus\\_traffic/traffic/t\\_fukakusa.html](http://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/traffic/t_fukakusa.html)

キャンパスマップ: <http://www.ryukoku.ac.jp/fukakusa.html>

参加費:1,000 円(当日会場にて現金でお支払いください)

※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトのマイページ](#)から3月22日までに事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録方法について、詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

※昼食休憩時間は特に定めておりませんので、各自、適宜おとりください。休憩室として21号館1階101教室が利用可能です。

### ◆支部集会日程◆

9:30	受付開始・書籍展示	【1階エレベーター前】
10:00-10:15	開会式	【3階302教室】
10:30-12:10	口頭発表<午前の部>	【3階302教室】
11:00-12:30	交流ひろば	【4階403教室】
12:30-13:30	チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー&個別相談」	【3階302教室】
13:00-14:30	ポスター発表	【4階403教室・404教室】
13:40-14:45	口頭発表<午後の部>	【3階302教室】
15:00-16:30	講演	【3階302教室】
16:30-16:40	閉会式	【3階302教室】

### 【10:00-10:15】開会式

会場:3階302教室

### 【10:30-12:10/13:40-14:45】口頭発表

会場:3階302教室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.5~, 詳細は予稿集をご覧ください。

#### <午前の部>

- ① 10:30-11:00 日本語と教科学習を統合的に学ぶ日本語教材の開発と分析  
 -教材分析・授業の実践報告・フィードバック調査の分析から-  
 有本昌代(大阪府立門真なみはや高等学校)



- ② 11:05-11:35 日本語指導教員指導支援サイト訪問者の指導力向上を可能にする  
Webコンテンツ活用状況の把握  
孕石敏貴(豊明市立双峰小学校)・野村泰朗(埼玉大学)
- ③ 11:40-12:10 日本語教育機関における教師間の実践の共有と効果  
-Googleアプリによる日常的な実践共有支援-  
土屋理恵(日本ウェルネススポーツ専門学校広島校)
- <午後の部>
- ④ 13:40-14:10 ベトナム語の「結果・目的」を意味する動詞連続と日本語の対応形式  
道上史絵(大阪大学大学院生)
- ⑤ 14:15-14:45 中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と  
範囲限定を表す「で」の習得  
岡田美穂(北九州市立大学)

## 【11:00-12:30】交流ひろば

会場:4階 403教室

- ① ちらし教材「やさしい日本語で読む！雪道ガイド」の紹介  
浅井華代(ひこね国際交流会 VOICE 日本語教室)・浅井久之(龍谷大学)  
2015年に「雪」を題材にした学習に関する研究発表を行いました。質疑応答で「ちらし」を作成してみてもどうかと助言をいただき、雪の季節を中心に滋賀県内のイベントや日本語ボランティア養成講座等で配布・交流しています。「ちらし」を使った少し目先が変わった教材を気楽に見ていただきたく思います。お待ちしております。
- ② 介護福祉士候補者のための介護専門用語学習支援ウェブサイト「かいごのご！」  
角南北斗(フリーランス)・橋本洋輔(国際教養大学)  
介護福祉士候補者の介護用語学習は、主に施設配置後に自律学習の形で行われます。そこで、出展者は、学習手段の提供に加え、候補者の学習設計や学習管理の機能を有する、介護用語学習支援ウェブサイト「かいごのご！」を開発しました。当日は、実際にウェブサイトを使用させていただいて、意見交換が行えればと考えています。
- ③ 誘導せずに相手から話を聴く方法-NICHDガイドラインに基づく面接を体験してみよう-  
羽瀨由子(徳山大学)・赤嶺亜紀(名古屋学芸大学)・上宮愛(立命館大学OIC総合研究機構)  
私たちは相手から話を聴くときにできるだけ負担をかけずに事実を聞き出す方法を研究しています。子どもに対して開発された面接法(司法面接: forensic interview)で用いられている面接技術を体験してみましょう。そして、外国人から日本語で話を聴くときにどのように活用できるか話し合しましょう。



【12:30-13:30】 チャレンジ支援委員会

## 第2回発表応募支援セミナー&個別相談会

会場:3階 302 教室

### ◆発表応募支援セミナー

「そろそろ何か発表してみたいけど、どうやったらいいの?」、「応募したけど不採用だったのは、何がいけなかったの?」。そんな皆さんを支援するのも「チャレンジ支援委員会」の使命です! 今回も支部集会にお邪魔して「発表応募支援セミナー」を行います。

### ◆個別相談会

「おせっかい侍」が応募書類のチェックやみなさんの研究スタートアップのお悩みについて個別に相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、学会ウェブサイト支部集会ページにある発表応募提出様式の「様式(A)応募者情報シート」「様式(B)査読用要旨」をご持参ください。

※前半のセミナーに引き続き、後半は任意で個別相談に応じます。

少しでも発表をお考えの方も、これからという方も、ぜひこの機会をご利用ください!

## 【13:00-14:30】ポスター発表

会場:4階 ①~③403 教室 / ④~⑦404 教室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム p.7~, 詳細は予稿集をご覧ください。

### <403 教室>

- ① 外国人児童に対する授業外・授業内多読指導の実践事例  
松井孝彦(愛知教育大学)・松井千代(岐阜聖徳学園大学)
- ② モジュール型教材の可能性: 関西外大における中級日本語教科書開発の実践報告 (2016~2018)  
高屋敷真人(関西外国語大学)
- ③ 初級レベルにおける日本語作文教育の再考  
-語彙から文・談話が構成されるプロセスの分析をもとに-  
西村由美(関西学院大学)・早川杏子(同)

### <404 教室>

- ④ 中級日本語学習者の敬語学習に対する向き合い方を左右する要因とは何か  
-成功経験と失敗経験に着目した事例分析から-  
徳間晴美(早稲田大学)
- ⑤ インドネシア人元 EPA 看護師の帰国後のライフステージ  
中谷潤子(大阪産業大学)



- ⑥ 異文化理解クラスでの留学生と日本人学生の対話による双方向の学び  
-交流の機会が限られた地方大学における実践例-  
吉澤真由美(東京大学)・元木佳江(四国大学)
- ⑦ 保育者と外国人保護者とのコミュニケーションにおける問題と日本語支援の可能性  
-東大阪市でのアンケート調査の結果から-  
杉本香(大阪樟蔭女子大学)・樋口尊子(同)

**【15:00-16:30】 講演**

**会場:3階 302 教室**

## 日本語教育人材の養成・研修の在り方について

-文化審議会国語分科会日本語教育小委員会「報告書」を読み解く-

**講師：加藤早苗氏**

(インターカルト日本語学校・文化庁文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員)

現在、大学や民間の日本語教員養成機関においては「平成12年教育内容」を基本的な指針として教員の養成を行っているが、周知のように、在留外国人の増加や在留目的の多様化など日本語教育を取り巻く環境は大きく変化している。このような現状を受け、日本語教育小委員会では、平成28年度から、様々な活動分野で行われている日本語教育人材の養成・研修の状況をヒアリングや書面調査により把握して分析を行い、活動分野や役割ごとに求められる資質・能力を整理し、それに応じた教育内容やモデルカリキュラム提示に向けて検討を行っている。本報告は、その過程と平成30年3月に出される予定の報告書の具体的内容についての理解に資する場としたい。

**【16:30-16:40】 閉会式**

**会場:3階 302 教室**

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp



〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・口頭発表①〕

### 日本語と教科学習を統合的に学ぶ日本語教材の開発と分析

－教材分析・授業の実践報告・フィードバック調査の分析から－

有本昌代

公立学校に在籍する外国人児童生徒の数は増加かつ多様化しつつあるが、高校において課題となっているのは日常会話ができても考える力が育っていないケースである。その背景として、高校生を対象とした日本語教材がなく、年齢に相応しい思考力や認知発達の育成が十分になされていないことが考えられる。そこでこれらの課題に取り組む第一歩として、特に日本語と教科内容を統合的に学ぶ日本語教材の開発が重要であると考え、教材開発と学習言語としての日本語、考える・伝えるための日本語を育てるための実践に取り組んできた。現在は本校をはじめ外国人生徒が在籍する他の学校現場においても試用段階にあり、今回の発表では開発中の日本語教材の分析、この教材を使った授業の実践報告と生徒のアンケート、他教員からのフィードバックの分析結果を報告し、今後それらの結果をもとにさらに教材に改善を加えていき、教材開発、研究を進めていきたいと考える。(397 字)

(有本一大阪府立門真なみはや高等学校)

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・口頭発表②〕

### 日本語指導教員指導支援サイト訪問者の指導力向上を可能にする Web コンテンツ活用状況の把握

孕石敏貴・野村泰朗

日本語指導が必要な児童生徒の増加に伴い、彼らを日本の学校に適応させることや彼らの日本語指導を担う教員の指導力向上のために、次期学習指導要領で求められている IT を活用した何らかの手立てを講じることは急務である。筆者が制作した日本語指導全般を支援できる「教案便サイト日本語指導エリア」では、日本をはじめアメリカやヨーロッパ等 10 か国以上で学習エリアの継続的利用が確認でき、日本語学習教材としての期待感が示唆された。しかし、当該指導教員からは Web コンテンツ活用指導法をはじめ IT 活用全般への不安感もみられた。そこで、日本語能力アセスメント (DLA) による日本語レベル判定に応じた日本語指導全般を紹介した動画形式の Web コンテンツを制作し、本教材コンテンツ上での閲覧を容易にして、その活用状況を把握し、OJT 的な指導力向上の可能性を検討する。

(孕石一愛知県豊明市立双峰小学校・野村一埼玉大学)



〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・口頭発表③〕

### 日本語教育機関における教師間の実践の共有と効果

—Google アプリによる日常的な実践共有支援—

土屋理恵

非常勤教師が高い割合を占める日本語教育機関において、所属教師集団を教師コミュニティとして捉え、専門的な学習共同体 (Professional Learning Community) を目指す中で組織的に授業の質の向上を図る研究の一環として、Google ドライブと Google グループを導入し教師間の実践の共有を促進する支援を行った。前者は共有情報の貯蔵庫として、後者はトピックごとの意見交換や各種情報発信のための手段として用い、いずれもメンバーの誰もが編集および発信できる設定で運用している。半年間の取り組みを経て、所属教師 12 名中 11 名が Google アプリの導入により同僚の取り組みを感じる機会が増え刺激を受けたとアンケートに回答した。メンバーからの実践の共有を契機に職員室で新たな会話が生まれ、次の実践へとつながる事例も増えてきた。これまで曜日ごとの固定されたメンバー間にとどまっていたインフォーマル学習が全体に広がったことにより、教授活動にプラスの影響が出ていることが示唆された。

(日本ウェルネススポーツ専門学校広島校)

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・口頭発表④〕

### ベトナム語の「結果・目標」を意味する動詞連続と日本語の対応形式

道上史絵

ベトナム語には「動詞連続」と呼ばれる構造があり、一つの文中に複数の動詞が活用変化なしに連続して出現する。その中で「あげる」を意味する動詞 *cho* が文法化し使役動詞として機能しているものを V2 に用い、「目標 (目的)」あるいは「結果」の意味を表す場合がある。この *cho* を用いた「結果・目標」を意味する動詞連続の例文を収集し日本語に対応させたところいくつかの訳出パターンが見られたが、本発表では V1 もしくは V2 を省略する表現を取り上げる。日本語では言語化されない目標や結果が、ベトナム語では言語化される傾向がある。その原因として一方の動詞が他方の動詞を含意している可能性、さらに文脈上動作か結果かどちらかにフォーカスが当たっている可能性、また助詞が関与している可能性などが考えられる。本発表では、ベトナム語と日本語を比較しながらその分析を試みる。

(大阪大学大学院生)





〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・口頭発表⑤〕

中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と範囲限定を表す「で」の習得

岡田美穂

中級レベルの学習者は動詞の動作性に引かれ①「部屋でテレビを置いた」等を用いる（鈴木 1978）。①には動作場所「で」が用いられている。他方，①には範囲限定「で」を用いるという学習者がいる（岡田 2017）。移動先「に」の習得には範囲限定「で」も関わっている可能性がある。そこで①の「ニ→デ」が移動先「に」を，範囲限定「で」と混同したことに起因するのであって，動作場所「で」と混同したことに由来しないという仮説を立てた。中級レベルの中国語話者 29 人を対象に格助詞選択式調査（例「部屋（に・で・を・から）テレビを置いた」）を行った。回帰分析には例のような文における「で」選択率を目的変数とし説明変数には範囲限定「で」正答率と動作場所「で」正答率を用いた。回帰式において範囲限定「で」正答率は正に有意となったが，動作場所「で」正答率は有意にならなかった。これは範囲限定「で」を用いることで①の「で」が増えることを示している。

（北九州市立大学）

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表①〕

外国人児童に対する授業外・授業内多読指導の実践事例

松井孝彦・松井千代

平成 26 年 4 月 1 日から日本語指導は特別の教育課程に位置づけられた。そこで，日本語指導の一環として外国人児童生徒に対する日本語の多読実践を行い，その影響を調査しようと考えた。本稿では「小学校における，外国人児童に対する授業外・授業内多読実践の実践デザイン」及び「多読実践を通じた，外国人児童の日本語を読むことに対する変化」について報告することを目的とする。

小学校 2 年生から 5 年生までの計 7 名について，週 1～2 回の授業外多読（20 分）及び授業内多読（5～10 分）に取り組ませたところ，授業者による行動観察及び感想用紙の記述内容から，日本語絵本を読むことに対する抵抗感が軽減し絵本を読むことに対する動機づけが高まった様子が見られた。

本実践デザインによる児童の変容を報告することで，現在小中学校ではあまり行われていない日本語多読実践の普及，促進の一助になることを期待する。

（松井孝一愛知教育大学・松井千一岐阜聖徳学園大学）



〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表②〕

モジュール型教材の可能性：関西外大における中級日本語教科書開発の実践報告（2016～2018）

高屋敷真人

本発表は、関西外国語大学留学生別科の日本語会話レベル 6（中級後期）の教科書開発プロジェクトの実践報告である。本プロジェクトは、コミュニケーション・アプローチ（CLT）の基本理念に基づき、①「接触場面」を重視したペア・ワークやタスクなど意味のある教室活動、②学習者のニーズに合致したより柔軟で即興的な教室活動、③教室内と教室外の言語活動を一致させるような実践的な会話教材の作成の実現をその目的とする。これらの目的を遂行するために本プロジェクトでは文法項目の提出順序の変更やユニットそのものの交換が柔軟に行えるモジュール型教材を採用した。本発表では、2016 年度から本学留学生に対し行われたアンケート調査や授業評価の結果をもとに学習者のニーズを分析した上で教科書の改訂を行って来た過程、その後の改訂へのアンケート調査の結果なども紹介し、今後の展望などについても報告する。

（関西外国語大学）

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表③〕

初級レベルにおける日本語作文教育の再考

—語彙から文・談話が構成されるプロセスの分析をもとに—

西村由美・早川杏子

既習の学習項目の運用のために行われる一般的な作文教育に対し、本研究は、学習者の豊かな経験・思考を引き出すことが必要だと考え、形式のフレームに語彙概念をはめ込むのではなく、語彙概念を形式のフレームに落とし込んでいく作文授業をデザインした。作文執筆の手順は①ブレインストーミング、②アウトライン、③第一稿、④ペア相手と①②を交換し、それを手がかりに相手の作文の内容を推測して書く、⑤自分の第一稿と相手が推測して書いた作文を見て推敲する、である。実践で得られた作文を対象に、このプロセスを分析した結果、構成の変更が③までの段階に集中すること、語から文や談話へと様々な膨らませ方があること、ペア相手が推測して書いた作文から語・文・段落・構成を取り入れることが明らかになった。この結果は、語彙概念が先行し、そこに形式をあてはめることによって作文が充足すること、学習者が主体的に推敲していること示唆している。

（関西学院大学）





〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表④〕

### 中級日本語学習者の敬語学習に対する向き合い方を左右する要因とは何か

—成功経験と失敗経験に着目した事例分析から—

徳間晴美

本研究は、敬語学習を経験した段階である中級日本語学習者を対象とし、現在の敬語学習に対する向き合い方がどのように形成されているのか、その要因を明らかにすることを目的とする。分析は、調査Ⅰ（質問紙調査）の調査協力者 17 名のうち、敬語を用いたコミュニケーションにおける成功経験および失敗経験がある学習者 4 名に対して実施した調査Ⅱ（インタビュー調査）のデータを対象とした。なお、調査および分析では、学習者の成功経験および失敗経験、将来への展望とのつながりに着目した。発表では、学習者個々の事例を示すにあたって、成功経験と失敗経験の意味づけられ方を示し、敬語学習に向き合う内発的動機と外発的動機の複雑な関係を描く。結論として、学習者にとって選択的である敬語学習に対する向き合い方を左右する要因としては、自分を満たす敬語使用のあり方を模索する、学習者の「人としての欲求」があることを述べる。

（早稲田大学）

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表⑤〕

### インドネシア人元 EPA 看護師の帰国後のライフステージ

中谷潤子

EPA インドネシア人看護師候補生の中には、国家試験に合格し晴れて正看護師として働き始めても、数年で帰国してしまう人も多い。苦勞して試験に合格したにもかかわらず、なぜ帰国してしまうのか。また帰国後もステップアップできていないケースもあるとなると、当事者にとっても、日本、インドネシア両国にとっても問題である。そこで、帰国後のライフステージを明らかにすべく元 EPA 看護師にライフストーリー・インタビューを行った。インドネシアで再就職し、転職しながら再来日を願うも家族の事情を抱えるケースと、一旦帰国したもののすぐまた来日し、看護師として働き始めたケース。二つのケースから、彼らの体験とライフステージとの関わりを明らかにする。また日本での外国人労働者受け入れ体制への課題を提示し、それについての提案も行いたい。

（大阪産業大学）



〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表⑥〕

### 異文化理解クラスでの留学生と日本人学生の対話による双方向の学び

—交流の機会が限られた地方大学における実践例—

吉澤真由美・元木佳江

グローバル社会に対応する人材育成が重要課題となっているが、多くの地方大学では、異文化間交流の機会が限られているのが現状である。本発表の対象となる徳島県内の私立大学では、異文化理解クラスに今年度から日本人学生を迎え、情報を提供し合ったり、意見を述べ合ったりする対話型活動を積極的に取り入れた。その結果、①留学生だけではなく、日本人学生にも大きな学びが得られていた②両者が一緒に学ぶことで友人関係の構築のきっかけが生まれるなど有益なものとなった。本事例は、地方大学での異文化理解教育の在り方について考える上で、参考になると考える。但し、調査対象が少なく、更に研究の積み重ねが求められる。また、性格や教育観から対話型活動に不向きな学生も存在する。それらの対処方法も考慮しながら、地方で留学生と日本人学生双方の異文化間理解を深めるために、更にもどのような取り組みが必要なのか考えていきたい。

（吉澤—東京大学・元木—四国大学）

〔2017 年度第 10 回支部集会（龍谷大学，2018. 3. 24）発表・ポスター発表⑦〕

### 保育者と外国人保護者とのコミュニケーションにおける問題と日本語支援の可能性

—東大阪市でのアンケート調査の結果から—

杉本香・樋口尊子

東大阪市の保育施設 69 園を対象としたアンケート調査の結果から、保育者と外国人保護者とのコミュニケーションにおける問題と実態を明らかにし、日本語教育側としてどのような支援が可能かを検討する。東大阪市の約 9 割の園に外国人保護者がおり、保育者は書類、電話、対面のどの場面でのやりとりにも困難を感じている。保育者側が日本語教室に望む支援内容として「会話」「ひらがな・カタカナ」が上位に来ていることから、日本語の読み書き能力の低い保護者がおり、保育者も口頭でのコミュニケーションを重視している一方、外国人保護者からの相談内容で「書類の読み方・意味について」が最も多いことから、読んで理解したいと思っている保護者もいることがわかる。日本語支援の場では、外国人保護者の日本語能力の段階に合わせ、保育者とコミュニケーションが取れるように支援することが求められる。

（大阪樟蔭女子大学）

